

部員数と競技意識に関する研究
 ー奈良県下の高校女子バレーボール部を対象としてー

中尾 華江 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
 指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：部員数 高校生女子 取り組む姿勢

1. はじめに

近年、全国の高等学校において、課外活動に参加する生徒数が年々減少している。この傾向は、奈良県下の高校女子バレーボール部においても同様で、図1に示したように2007年より減少傾向にある。

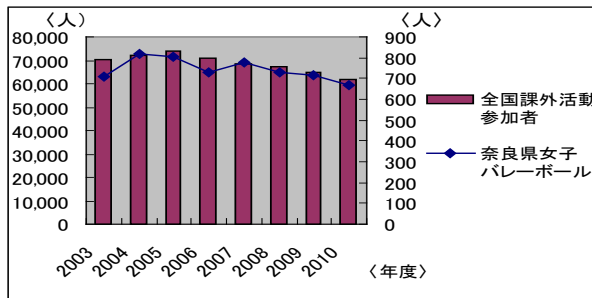


図1 女子バレーボール部員数の推移 (筆者作成)

部員数の少ないチームは、よくいえば「少数精鋭」といえるかもしれないが、誰でもスターティングメンバーとしてコートに立つことが出来てしまう。ただ、そのような状況は、チーム内競争がないため、切磋琢磨して積極的に競技に取り組む姿勢は少なくなる。このことから、部員数が多いチームと少ないチームを比較した場合、課外活動へ取り組む姿勢に差が出てくると推考した。

そこで、本研究では、奈良県下の高校女子バレーボール部に着目し、部員数とその取り組む姿勢の関連性を調査した。そして、適切な状況を示唆する。

2. 研究方法

アンケート調査 対象者 奈良県下の高等学校女子バレーボール部選手 部員数の多いチーム・少ないチーム各5校、計10校実施

部員数の多いチームは12名以上、少ないチームを試合に出場可能な最低限の人数である6名以下と分類した。

3. 結果と考察

課外活動に対するモチベーションを3段階(3高・2中・1低)に設定し、調査した。

表1 練習時と試合時のモチベーション

	少ないチーム	多いチーム
練習時	2.0	2.4
試合時	2.6	2.9

表1に示すように練習時・試合時ともに部員数の多いチームが高値を示した。これは、チーム内競争に対する意識が高いことが一要因であろう。また、部員数の適正人数を調査した結果では、ポジション争いが適度に生じる15名以上20名以下となった。

4. まとめ

普段の練習環境は最低限コート1面がネットを張った状態で占有使用出来、練習時間を十分に確保することが重要となる。

奈良県では、チーム数の減少は見られないものの、部員数が減少している。その解決策として、まずは絶対数を増やすことが重要となる。それだけでなく、部員数の不足しているチーム同士が連携し、合同チームで試合に出場出来るようなシステムを構築することが解決するために必要となるだろう。

引用・参考文献

西島 央(2006)「部活動ーその現状とこれからのあり方」学事出版株式会社 12-16